

捨てればごみ、再利用して資源に



6月19日(水)に岐建株式会社より、トイレットペーパー100個を寄附いただきました。同社は福祉施設と協力し、現場事務所で発生した古紙をトイレットペーパーとして再利用する取り組みを行っており、このトイレットペーパーは令和5年度東海環状自動車道盛土工事の際に発生した古紙を再利用して作られたものです。

同社の梶田隼人さんは「地域住民の協力により、工事を順調に進めることができたので、感謝を込めて今年もトイレットペーパーを寄附しました。これに併せ、今年は上多度小学校と一緒にSDGsについて学び、トイレットペーパー300個を寄附しました」と話しました。

寄附いただいたトイレットペーパーは町内の公共施設などにおいて使用します。

このまちの未来を創る子どもたちへ



教育環境の整備を支援するとともに町制施行70周年を記念し、株式会社アクセス(大垣市)より、企業版ふるさと納税制度を活用して200万円を寄附いただきました。同社からは令和2年から継続して寄附をしていただいています。

6月26日(水)に上田淳太郎代表取締役が川地憲元町長を訪問し、「自分の生まれたまちのためにできることを、今後も継続していきたいです。子どもたちを取り巻く環境の変化、少子化による教育や学校のあり方の見直しなど、課題が多くあると思います。このまちの未来を創っていく子どもたちの教育に役立ててください」と話しました。

いただいた寄附金は、学校施設の整備など、子どもたちの教育のために活用させていただきます。

わたしたちの感じること、伝えたいこと



小学生の部 最優秀賞 田中杏里紗さん 中学生の部 最優秀賞 川瀬詩乃さん

6月9日(日)に町民会館で少年の主張審査会が行われました。小学生の部は、「自慢の養老町」と題し、人口減少が問題になっていると感じる中でも地域との繋がりを深めていくことを大切にしたいという思いを発表した上多度小学校6年生の田中杏里紗さんが、中学生の部は、家族への思いや命の大切さについて触れ、失ってから気付いても遅い「かけがえのないもの」への思いを発表した東部中学校3年生の川瀬詩乃さんが最優秀賞に選ばれました。

発表者全員が、自分の感じたことや伝えたい気持ちなど、それぞれの思いを堂々と主張し、聞いている人たちの心に訴えかける素晴らしい発表でした。

手を取り合って地域を美しく



6月24日(月)と27日(木)に大垣養老高等学校 環境科学科2年生の生徒により、環境美化活動として宮の森公園の樹木の剪定が行われました。この活動は総合実習の授業として行われ、これまでに授業で学んだことを実践し、地域のために活かすことで地域貢献に繋がってほしいという生徒たちの思いが込められて実現しました。

同校の大石真一先生は「宮の森公園の樹木の剪定は、実践的な学習とすることができるだけでなく、加えて自分たちが普段からお世話になっている地域への貢献にも繋がる、とても有意義な取り組みだと思います。今後も町や地域と手を取り合って、地域のためになる活動を継続的に行っていきたいと思います」と話しました。